

報告書

Salmon of the Pacific Northwest Team 3

久保 達

A) 作業は前半と後半の2つに分かれていた。

前半は **North Fork Sauk River** の上流にて、川とその川岸の深さや幅、位置を調べた。(そこは下流に大きな滝がありサケはあがって来ない場所である。) また、その周辺の木々について年齢や直径を調べ、その位置をマッピングした。

後半は **Skagit River** の下流域に場所を移した。そこはサケが産卵のために上がってくる小川であり、サケの稚魚も数多く見られた。プールの深さや幅、長さ、また川幅や倒木、流木の大きさなどを調べた。

レクチャーでは **Pacific Northwest** に生息するサケの種類、川やその周辺の森の変化の様子などが話題に上った。鮭の孵化場を見学しに行った日には、日本とアメリカの違いについてメンバーで話し合った。

B) 体験を通して一番感じたことは、日本とアメリカの環境(に対する考え方)の違いである。

鮭の孵化場を見学しに行く前に古田先生から次のことを教わっていた。

- ①日本では知床の数本を除く(ほぼ)すべての川に鮭の孵化場がある。
- ②川を上がってきたサケは100%孵化場に入れられてしまう。(時季外れは除く)
- ③殺されたサケは安く売られる。

アメリカの現状は

- ①東海岸はほぼ日本と同じような状態である(らしい)が、ここ **Pacific Northwest** では、孵化場が設置されているのは40%ほどだそうだ。
- ②孵化場が設置されている川を上がってきたサケも100%孵化場に入れられてしまうわけではなく、孵化場に向かう川の流れの前に分岐点があり、自然産卵も可能である。
- ③殺されたサケは川の上流に捨てられる。

まず、私自身が日本のサケの現状にあまりに無知だったことに気付かされた。熊がサケを捕らえる姿が日本でも当たり前のように見られると思っていただけにショックを受けた。『海から帰ってきたサケが川の上流で、自然産卵や熊に食べられ死ぬことで、海ミネラルを川や森に還元し豊かにする。』ということは星野道夫さんの写真集で学んだことがある。サケにも立派な役割があるわけで、それを人間のエゴで奪い取ってしまっているとしたら、将来はどうなるのであろうか。**Pacific Northwest** の豊かな川や森を見て、やはりサケと共生する道を探していくべきだと思った。このプロジェクトでは、サケが産卵のために上がってくる小川にある、人間が作った障害物(トンネルや人工の滝、ダムなど)がサケに与える影響についても調査していた。それらを取り除くためのお金は十分に価値があることを主張していくらしい。人口密度や国土の広さ、治水など条件の違いはあるが、日本でも多くの川でサケが自然産卵する姿が見られるようになると良い。そのために私にできることは、現状を勉強し知ること、多くの人に伝えることだと思う。

C) 私は数学の教師なので、授業で直接に川やサケのことについて触れることはない。よって、学活や道徳、総合的な学習の時間などで、私が見てきたこと、感じたことなどを子どもたちに伝えていきたい。そのことをきっかけに、子どもたちが何かを感じてくれたり、興味、関心を持ってくれれば、この体験が意味を持つてくると思われる。